持続可能な社会へ――「国民皆百姓」だれもが何かしら食の「生産」に関わる社会を

福島県農民連　根本　敬
ひぐらし農園　浅見彰宏

脱サラで農業の道へ進んだ浅見彰宏さんを訪ね、喜多方市山都町へ。浅見さんは飯豊山の麓で江戸時代から受け継がれる水路を守りながら有機農業を実践。福島県有機農業ネットワークの理事長も務めます。

タイ米の騒ぎに怒り

根本　国連の「国際家族農業10年」、生態系を破壊しない農業「アグロエコロジー」など、地球規模では農業においても持続可能性が重要な課題となってきているが、日本では今ひとつ、次の展開が見出せずにいます。

浅見　僕の実家は千葉で、農業とは縁がなく就職してサラリーマンをやっていた。きっかけは平成の大冷害。日本の米がスーパーから消え、タイ米を輸入して、テレビで「こんなまずい米食えないよ」と騒いでいる…非常に憤りを覚えましたね。食の問題に興味を持ち、日本の農業の足腰がなってないことにも気づいた。よし、自分の食べ物は自分でつくろうと。金子美登さんという有機農業界で有名な方のもとで1年間研修を受けました。そしてなぜか「雪国の山間部で温泉が出るところがいいな」と。

根本　ははは！

浅見　山都町へ引っ越してきて、空いている田んぼを借りて自分の食べる米を作りはじめました。それが1996年。「7畝で11枚」という田んぼで。

根本　えーっ！

浅見　人力なのでそのくらいでちょうどよくて。農薬の使い方がわからないんで、はじめから有機農業でしたね。米の他に、野菜と採卵鶏、今年は豚も6頭います。多いときは鶏を300羽くらい飼っていたが、熊に襲われるようになり、小屋も壊されて、今は鶏を減らして、オーナー制で夏だけ豚を。餌はどこかで要らなくなったものばかりですよ。おから、米ぬか、野菜くずなど。

根本　サラリーマン辞めたときは家族は？

浅見　こっちに来て2、3年くらいまで独身でしたね。妻とは研修先で知り合いました。

根本　脱サラで農家を目指して、辞めていく方もいますけど、浅見さんはもうダメかなと思ったことは？

浅見　今でもありますよ（笑）冬はアルバイトしてます。会津の山間部で有機農業はハードルが高い。ほとんどの人は数年で帰ってしまいますね。残るのは「田舎暮らし」が目的で、農業収入をアテにしていない人たち。

根本　フランスはそれで田舎の人口が増えているんですよね。新規就農者が野菜売ったお金で生活なんて大変よ、農業に命かけちゃ、本末転倒！

全長6キロの水路はほぼ土側溝

浅見　山間地の農地の維持が私の重要なテーマで、必ず水利の問題が出てくる。僕の集落には「本木上堰」という堰（水路）があって、棚田に水を供給している。20年前30人だった地権者が今は10人。

根本　堰はどのくらいあるの？

浅見　6キロです。農家はみんな高齢で、子どもたちは集落を出て…。

根本　中山間地支払いは？（農水省の中山間地域等直接支払制度）

浅見　それも使っています。次に更新する人はいないんじゃないかな。水路が維持できないと棚田が一気に消滅します。みんなあと5年続けてくれれば日本の状況も変わってくるかもしれないんだけど。

根本　堰は土側溝？

浅見　ほぼ。冬は水を止めてしまうので、春先に土砂や枯葉なんかを取り除く「堰上げ」が大変で…。

根本　いやいや…。U字溝にできないの？

浅見　重機が入らないところなんです。堰上げは作業分担で不平等が起こらないよう徹底し、農家じゃない人も参加できるように、全部金額決めてやるんですよ。

根本　残したいよね、棚田。

浅見　産業としての農業なら僻地でもやりようはあるし、花を植えたら人がいっぱい見に来ましたとか…でも日本の文化や風景を考えたとき基本は稲作だなと。食の多様化のなかそんなにお米をいっぱい食えない、米はコスト高、と言われようが、日本の隅々まで米作りができるといいですね。

根本　日本の米の消費量は毎年10万トンずつ減る、10年後は北海道と新潟の田んぼが要らなくなるくらいなのよ。

浅見　農家一軒じゃ水路を維持できないんですよ。農薬撒いてもいいからとにかく田んぼ続けてほしい。僕は集落では有機農業でやろうって話は一度もしたことがないんです。有機とかは若くてやる気があるやつに任せればいいから。

根本　がはは！農家にとって水は命だよな。

集落存続のカギは地域の人々のつながり

浅見　集落の活力って、草刈りができてるかどうかでわかるんです。例えば島根なんか、東北よりはるかに過疎先進地なのに、きれいに刈られていて。このへんだと路肩も除草剤を撒いてしまうんですよね。よかれと思って（笑）

根本　畑も田んぼも全部茶色になってるのが好きなんだよね、緑の革命じゃなくて「茶色の革命」だ！　でもオヤジ世代の気持ちもわかるよ。あの重労働から解放される、薬撒いときゃ一発で済む。

浅見　「草が見えないこと」が良いことだと思っているんですよね。

根本　先端技術ってなんなのかと思うね。農業にドローンって、何するの？って聞いたら、「農薬散布がすごく楽になります」って。

浅見　今のままでは農村が維持できない。行政や政治の力も必要です。福島県でサラリーマンをやっても手取りでせいぜい20～30万円までなんで、土日で田畑をやってプラス4万円、集落の草刈りも日当が付くとか、理想は収入源がいっぱいある、多職ですね。市町村がもっている予算権限を自治会の裁量で使えれば、全体的に「暮らし」と「収入」が結びつくんじゃないかと。

根本　お金が出るから自分たちでやっべ、っていう話でもいいよね。EUは農業をやっていればお金をもらえる「直接支払い」が多い。

浅見　ものすごい金額で土建屋さんに頼むのと、どっちがいいのか考えたほうがいい。

変わってきた田舎のコミュニティ

浅見　最近違ってきたなと思うのは、田舎に集まってきた多様な人同士で少しずつお金が回っていくことですね。パン作ってますとか。20年前は人々が「点」の世界でしたね。

根本　真正面から農業に立ち向かうばかりでなく、異質な人が農村に入ってくることでもともと住んでいた人も価値に気づくのかな。

浅見　僕は「あいづ朝市」もやっていて、クッキー作ってます、はちみつやってます、自然派の暮らしをしています、という人達が中心ですね。農家って直接売るのを面倒くさがるんですよ。野菜を何十年も作っているような人は参加していない。僕の玉子は1個50円、計算が苦手なので金子先生の金額を参考に。

根本　そんなに高くないね。農民連の産直カフェは物を売るだけの場所じゃない、食べる人と作る人が交流して、情報を提供して…。直売所も最近はスーパー化してきてるよね。壁に農家の顔写真を貼るのはやめてほしいよな。産直カフェは全部オーガニックとか、格上げしたいのよ。

浅見　「道の駅」だと対象が観光客なんですよ。僕は地元の人に買ってもらいたい。米は誰から買おう、芋は誰のが美味しいと、つながりがある生活が面白い。

根本　なるほど。

浅見　熱塩加納が取り組む地産地消の学校給食は全国的に有名で、地元の食材を使うだけでなく、調味料も自然食品の店で扱っているようなのものだし、食育もできている。栄養士さんがすごいんですよ。食材の発注からして「青菜」とかいう感じで、ほうれん草が来るか、チンゲンサイが来るかわからない。それでも対応できるという。

根本　注文したのと違うのが来たから返しますとか、じゃがいもは小さいと剥くのが大変だなんて、とんでもないよね。

浅見　熱塩加納の給食は手間がかかるので、人数が必要なんです。

根本　食がどう作られているのか、ちゃんと知る機会が奪われていて、「消費者」なんて呼ばれて。ただ、消して費やす人たちでは「持続可能な社会」はつくれない。

浅見　「国民皆百姓」で、誰もが何かしら食に関わる社会がいいですね。兼業農家は恥ずかしいって人が多いけど、大規模専業農家が少しあるよりも、小規模兼業農家がたくさんあるほうが健全だと思う。

山都町のカフェ「茶房千」にて

本木上堰の棚田の風景

福島県有機農業ネットワークの通信

「あいづ朝市」毎月2回、土曜日に開催

農民連フラッシュ flash

2019東北農民運動交流集会

11月17・18日、山形県かみのやま温泉で開催されました。税理士の吉元伸氏が「欠陥税制・消費税の問題点はどこにあるのか」と題して講演をし、消費税だけ下げろと言ってもダメ、不公平税制を変えないといけない！と、参加者全員で確認しました。また6つの分科会では各地の災害状況、農政の取組みや問題点が出され、有意義な時間となりました。

太陽光発電用地募集

太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

① 約1000～2000㎡の遊休地
② 日当たりがよい
③ 宅地、雑種地、林地、原野などの地目の土地
④ 賃貸条件：100円/坪（年）

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。

【連絡先】
福島農民連産直農業協同組合
担当：佐々木健洋
Tel.024-546-7229　Fax.024-546-8804
メールアドレス：stake@vmail.plala.or.jp